3月8日(金)・9日(土)

回復期リハビリテーション病棟協会 『第43回研究大会in熊本』を開催 しました

〈主なプログラム〉

- ●回リハ病棟におけるニューロリハビリ テーションの展開
- ●リハビリテーション・口腔・栄養の三位一体
- ●多職種チームのためのコミュニケーション
- ●認知症患者への特定行為を基盤とした ユマニチュード®を取り入れた看護

会 場:熊本城ホール

大会長:渡邊 進(熊本機能病院副院長)

参加者:2,373名 演題数:785題



ナースカー運行中

当院救急看護師が病院救急車 に同乗し、申し送りを受けます。 クリニック、かかりつけの病院、 福祉施設等へお迎えに参ります。

救急センターホットライン **4** 096-345-8131 € 096-345-8111(代表)

受付時間 / 月~金 9:00~16:30



ご紹介は私たち医療連携部が 担当いたします

転院のご紹介、ご相談は 随時受け付けております。 お気軽にどうぞ

医療連携部へのお問い合わせ ℃096-345-8111(代表)

受付時間 / 月~金 8:30~17:00



熊本機能病院 外来予約センター

4.096-345-8195(直通)

受付時間 / 月~金 8:30~17:00

8:30~11:00 / 13:00~16:00 土曜 / 日曜 / 祝日 / 年末年始

●急患については上記にかかわらず救急センターにて診療いたします。



〒860-8518 熊本市北区山室6丁目8-1 TEL 096-345-8111(代表) / FAX 096-345-8188

熊本機能病院公式サイト https://www.juryo.or.jp/



Į.

キノウトアシタ

KINOH TO ASHITA

熊本機能病院ホスピタルレター

「食べる」をとりもどすために

摂食・嚥下リハのご紹介

令和6年能登半島地震災害支援の報告

「INFORMATION] 回復期リハ病棟協会第43回研究大会報告 / ナースカー運行中 / 医療連携部



「食べる」をとりもどすために

摂食・嚥下リハをご紹介します



言語聴覚士 主任 竹谷 剛生



摂食嚥下障害看護 認定看護師 宮田 法

┃ 多職種が患者さまとともに行う「嚥下ラウンド」

嚥下障害原因 診断は○○です

(耳鼻咽喉科・

リハビテリーション科)

疾患管理、方針決定、飲み込み

ベッドより座位の方が 安定して

自力で食べられます 作業療法士/言語聴覚士 食事姿勢、食事動作

飲み込みは問題なくトロミ不要です

言語聴覚士 嚥下運動

おかずのサイズをもう少し小さくして 補助ドリンクをつけます

管理栄養士

食事形態、栄養状態

水分が不足しているようです

認定看護師

飲み込み、全身状態 (服薬、排泄、生活全般)

現在、義歯調整中です

歯科衛生士

口腔内の状況 咀嚼、咬合

┃正確な評価で適切なリハビリにつなげる

全入院患者さんの スクリーニング

- ●病前の食習慣
- ●摂食嚥下に関する既往歴 (脳卒中や誤嚥性肺炎など)
- 全身状態、栄養・排泄状態、 口腔·嚥下機能、姿勢、動作、 食欲、コミュニケーション 高次脳機能など

摂食嚥下評価

- ▼ スクリーニングにて 嚥下リスクが 中・高の方
- ☑ 回復期リハ病棟に 入院された方
- 実際の食事にて サポートチームが 摂食嚥下評価

精査



VF 嚥下造影検査

正確な診断





日々のリハ・ケア

間接練習(基礎訓練)

- ●頚部(主に咽)の 筋力トレーニング
- 嚥下運動練習
- ●アイスマッサージ
- 電気刺激療法

直接練習(摂食訓練)

- ●一口の量やペース
- ●口唇閉鎖、咀嚼
- ●交互嚥下(違う形態の食物を嚥下する)
- ●追加嚥下
- (一度で嚥下できない時に再度嚥下する)



当院における 「電気刺激療法」は、専用機器を用いて飲 み込みに関わる筋や神経を刺激し、嚥下運

動の改善を目指します。 脳卒中後の神経変性疾患による嚥下障害 などに有効です。

電気刺激療法実績

入院時、経管栄養だった脳卒中 患者30名に実施し、退院後21名 (70%)が経口摂取に移行できました。



■退院時経口摂取 ■退院時経管栄養

(2021~2022年度)

┃回復期リハ病棟におけるグレード別摂食嚥下 障害患者数の入退院時推移

(例)

摂食嚥下能力グレード			入院時	退院時
I 重症	Gr1∼3	経口不可	10	4
Ⅱ中等症	Gr4∼6	経口と代替栄養	3	0
Ⅲ軽症	Gr7~9	経口のみ	89	44
正常	Gr.10		-	54

経管栄養患者の → 76.9%

※2022年度102例



令和6年能登半島地震

当院からの災害支援



〈避難所回診前、保健師チームと打ち合わせ〉

~10日

JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会) 理学療法士:三宮克彦・田中康則

東日本大震災、熊本地震での経験を活かし、本部の立ち 上げと組織、支援スキームの確立等を行いました。

(活動地:石川県庁、金沢医大)

1月11日 ~13日

JMAT(日本医師会災害医療チーム)

医師:米満弘一郎/看護師:柳川弘樹:松田文/ 事務員:石本敬晃 (活動地:石川県志賀町)

2月12日 ~14日

JMAT(日本医師会災害医療チーム)

医師:米満弘一郎/看護師:宮城恵子·水谷友美/ 事務員:石本敬晃 (活動地:石川県志賀町)

熊本市医師会救急・災害医療担当として、志賀町の 町立富来病院の診療補助や避難所診療を行いました。



〈志賀町 町立富来病院〉



〈避難所のゾーニング、回診〉

0